

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000622		
法人名	株式会社 大木家		
事業所名	グループホーム牟呂 (ユニットA)		
所在地	豊橋市牟呂中村町5-4		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	令和6年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2392000622-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和5年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは、自分らしさを大切に安心して暮らせる第2の家を目指し、出来る限りお一人お一人のご要望に応えることが出来るように関わらせていただいております。真心を込めた接遇をさせていただき共に、専門スタッフによる手厚い介護体制でお世話させていただいております。管理者が看護師であるため、急変や体調不良などの判断も速やかに対応することができ、入居者様・ご家族様・スタッフも安心して過ごすことが出来ると考えております。お看取りまでさせていただく施設であるため、グループホームには珍しくリフト浴・介護用ベッドの設備もあり、ADLが低下しても快適に過ごすことが出来ます。会議・勉強会にも力を入れ、日々の入居者様の変化をグループラインで情報共有をすることで、きめ細やかな対応が出来ています。またその一方で、レジャーエーションにも力を入れ、入居者様が楽しめる努力を惜しまない明るい施設となっております。入居者様の自立支援・残存機能を生かし、生きがいを持ってゆったりと自分のペースで暮らして行けるように支援し、安心して人生の最期を迎えることが出来るように関わらせていただいております。新型コロナが第5類に移行し周りの施設も外出制限がなくなっていますが、当施設ではご家族様のご意向を聞きながら慎重に対応しております。今年のお花見はご家族様も参加され大変好評でした。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建てのモダンな事業所は、幹線道路から一筋中に入った公園や寺、小学校、住宅地が立ち並ぶ中に位置している。法人の理念と職員で考えたスローガン、「優しい心、素直な心、学びの心」を目標に掲げ、思いやりや笑顔あふれる暖かい環境の中で、一人ひとりの希望を尊重し、安全性に配慮した支援を心がけている。地域の行事が再開し、状況を確認しながら参加の方向で進めている。地域の利便性を活かし、歩いたり車椅子で馴染みになった小学校や寺、公園など地域の散策を楽しんだり、ゴミ出しや理髪店の利用、お揃いのTシャツを着てラン伴の応援をしたりして地域との交流を図っている。また、事業所主催の防災訓練に地域の方の参加を得たり、近隣の他施設と共に入居者も地域の防災訓練に参加するなど防災訓練を通して災害への意識を深めるようしている。趣味の編み物や裁縫、お化粧、男性の好きな囲碁やキャッチボール、サッカー観戦などを通じて今まで培ってきた経験が日々の生活に生かされている。食事は手作りの良さにこだわった食材を活かしたり、好きなメニューを選んだりして、入居者と一緒にひと手間かけて調理し、料理に合う食器に盛り付け楽しく食事をしている。「バスの来ないバス停」で日向ぼっこをしながら気長におしゃべりしたり、吹き抜けの天窓から陽が入る明るいリビングで入居者同士がおしゃべりを楽しんだり、ソファに座りコーヒーを嗜んだり、テレビや新聞などを心行くまで見たりして穏やかに過ごしている。喫茶店や外食などの外出、ドライブや季節の桜や紅葉見物、初詣などには家族も誘って出掛ける準備をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己自部外	項目	自己評価	外部評価
		実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	理念における共有を会議毎・研修時毎に復唱することで、実施に繋げる努力をしている。また、事業所理念を掲示することで、職員の共有に努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会社の理念を基に毎年職員からスローガンを募り、系列の3事業所で検討し介護課のスローガンを決めている。「優しい心、素直な心、学びの心」を職員の目指す目標として日々のケアに活かしている。理念とスローガンを各職員の研修ファイルに添付し、会議や研修の際に復唱して共有を図り、行動の指針として日々のケアを振り返りながら実践に努めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入し、回覧板や民生委員から情報を得ている。町内の夏祭りは施設事情により参加を見合わせた。近所の理髪店との継続利用や、お寺や公園、日々の散歩に出かけた折に、地域の方と挨拶を交わしながら交流を進めている。事業所主催の防災訓練に地域の方の参加を得たり、近隣の他施設と共に地域の防災訓練に参加するなど防災訓練を通して地域との繋がりを深めている。また、認知症座談会の開催や「バスの来ないバス停」の設置により認知症の方の啓発運動にも力を注いでいる。毎年恒例のラン件にお揃いのTシャツを着て応援をしている。地域の飲食店での食事や買い物、ボランティアの受け入れなどは状況を確認しながら再開していく方向にある。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症座談会の開催、「バスの来ないバス停」の設置により認知症のかたの啓発運動に努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は、人居者家族、自治会長、民生委員、市役所長寿介護課、包括支援センター職員の参加を得て対面で2か月に1回開催している。施設の運営状況や平均介護度、ヒヤリハット、事故報告を毎回グラフ化し詳細説明を加え分かりやすく報告している、行事や活動報告、施設の様子なども詳しく説明し、参加者と積極的な意見交換が行われている。意見や提案等は、職員会議などで協議しサービスの向上に活かしている。議事録は参加者に毎回手渡しや郵送をしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行政担当窓口には、運営推進会議の議事録を持参したり、介護保険更新手続きや申請の代行業務、サービスの取り組みなどを伝え、不明な点や問題などはその都度相談するようにしている。地域包括とは、地域の困難事例の相談や入所状況などの情報を交換しながら協力関係を築いている。市主催の作品展の運営委員として携わり毎年入居者の作品を出展し写真を撮って入居者に報告したり、ラン件の打ち合わせや応援などで協力関係を築いている。職員は市主催の研修には積極的に参加している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を3か月に1回実施し、拘束となる具体的な行為について正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特に親みを込めたやり取りの境目について考えたり、ふとした気の緩みや癖から発する言葉遣い、暴力行為がある場合の容認の仕方などについて話し合い共通理解を図っている。日々のケアの中で気づいたことはお互い声を掛け合い注意を促している。また、不適切ケアについてアンケート調査し分析して職員に報告している。
		研修を実施し、虐待防止に心掛けている。研修の結果、職員間の声掛けの言葉使いにそれぞれが敏感に注意し合える雰囲気となっている。また、カメラを設置することで介護状況を確認でき、カメラ設置の認識において事象発生リスクをなくしている。	

已自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度理解と活用を考え、利用者により成年後見・保証協会等の相談にも応じている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明時間を設け、不安などにて理解・納得を得られるように努めている。		
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	こまめに電話連絡し、また面会時などに機会を設けている。また、玄関に意見箱を設置して環境を整えている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞いている。意見や要望などは、申し送りノートに記録し、会議で検討して情報を共有し運営に反映させている。面会の制限を緩和し対面での面会としている。家族からの意見や要望は電話やショートメール、面会時や衣類の補充などの折に聞き、ケアや業務改善に役立っている。毎月の新聞や入居者の誕生日には日ごろの様子を写真にまとめコメントを添えて家族に届けている。意見箱も設置している。	
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談、会議、日頃からのコミュニケーション、ワークスのアンケート機能を利用するなどし、提案や要望を聞いて、その都度問題解決及び可能な内容については運営に反映している。また、玄関・事務所に意見箱を設置している。	職員とはラインワークスで繋がりに意見交換のできる体制を整えている。フロアーリーダーを中心に日々の業務の中やフロアー会議などで提案や要望を聞き、運営に反映させている。全職員に人事評価を導入し、自らの力量を正しく理解して、向上心を持って質の高いケアに繋げるよう努めている。管理者は職員と年1回、パート職員は年2回の面談や随時話し合う機会を持ち、業務や職場環境などに反映させている。適性検査CUBICを導入し職員配置も含め改善に役立っている。意見箱を設置して意見を述べやすい環境を整えている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃からのコミュニケーションを大切に一人ひとり声をかけ信頼関係の構築に努めている。面談でも改善点だけではなく、長所をほめ、向上心を持って働くことが出来るよう関わっている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・実務者研修の参加を促すことで職員のモチベーション向上に努めている。施設内の定期的な研修の他に、その時々で必要と思われる情報共有することで学ぶ機会を作っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東三河認知症連絡協議会の会員に入らせていただき、他施設の管理者との交流する機会を設けている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望・不安な事などをご本人様から聞いたり、言動から探っている。ご家族様からの情報を基に早期に信頼関係を築けるように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること、要望などを聞いた上で、サービス内容の説明を行い理解していただけるように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の要望を確認し、場合により他事業所の案内や他サービスの利用も考えた中でご本人様の入居の検討を実施している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来ることを見極め、生活の中で生かし信頼関係の構築に努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに近況報告し、足が遠のいているご家族様へはさりげなく面会を促したり、面会をしやすい雰囲気を作り関わっている。新聞の内容も、施設での状況が伝わるよう工夫している。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外にもお友達が気軽に会いに来られるようご家族様へは説明している。入居時にお好きな事などをご家族様から聞くことで、iPadでもう観戦をしたり、囲碁盤を持ってきていただいたり、大切にされてきた習慣が途切れないように努めている。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人や場所を把握し、入居者が大切にしてきた物事が続けられるような支援に努めている。面会の制限も緩和され家族の顔を見ながら話したり、自宅を見に行き、家族と話すなど家族との関係の継続に努めている。また、施設内の壁面にある昭和の懐かしい俳優のポスターや風景画を見ながら話題提供をしたり、日常の家事仕事で活躍できる場の提供に心掛けている。趣味の編み物や裁縫、お化粧、男性の好きな囲碁やキャッチボール、サッカー観戦などを通して今まで培ってきた経験を日常に生かしている。買い物や馴染みの喫茶店などの外出は状況を見ながら実施していく方向にある。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考慮した席の配置にすることで心地よい環境を作り、関わりが持てるように努めている。またトラブルになりそうな時は、職員が間に入り、関係の修復を図っている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時において、出来る限りのフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の思いや暮らしの希望を確認し、何気ない言動からくみ取るように努めている。表出の少ない人は、表情から把握したり、gp家族からの話を聞いて意向に沿ったサービス提供を心掛けている。	日常の入居者の様子や入居者同士のさりげない会話や表情などからくみ取ったり、入浴時や就寝前、テレビの観戦時などのゆったりとした時間にそっと寄り添って聴くようにしている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして、一人ひとりの思いの把握に努め、入居者の意向に沿った支援に努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り本人の思いや暮らしの希望を確認し、何気ない言動からくみ取るように努めている。表出の少ない人は、表情から把握したり、gp家族からの話を聞いて意向に沿ったサービス提供を心掛けている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状況を確認し、状態に変化があった際には、職員間で情報共有している。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス提供記録や職員間での情報共有、計画作成者が現場業務に入ることによって状態把握できている。また管理者兼看護師兼計画作成であり、家族とも密に連絡をとった上で現状に即した計画を作成することが出来ている。	日常の様子を詳細に記録したサービス提供記録や職員の意見をフォローリーダーが集約している。それを基に計画作成者が毎月モニタリングを行い、その都度評価をしている。入居者の意向や問題点、課題について担当者会議で話し合い情報を共有している。入居者や家族の意見や希望等踏まえながら必要に応じ、医師や看護師など関係者の意見を参考にして現状に即した介護計画を作成している。介護計画は3か月に1回見直しを行い、状態が変化した場合は随時見直しを行っている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録や職員間での情報共有をしっかり行うことで、ケアの実践、計画に生かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態に合わせた支援やその他サービス利用が行えるように状況の把握と共有をし、家族の要望にも対応できるよう、その時々にあったサービス提供ができるように努めている。		

已自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族のご意向もあり実現できていないが、地域イベントの参加や買い物などに出かけられるように考えている。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は月2回の往診と24時間体制で緊急時夜間でも対応出来ている。他科受診時介助が必要な方へは付き添いや送迎の支援など柔軟に対応出来ている。必要時は訪問看護の導入や在宅酸素の導入もあり、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医か、提携医かの希望を聞いているが提携医に全員変更されている。内科は月2回の往診と緊急の往診に対応している。歯科は月1回の口腔ケアと随時の治療も行っている。専門科は、家族の協力によりかかりつけ医に継続して受診している。また「電子@連絡帳」の情報を医療、介護、行政と連携し共有することで入居者の状況の伝達や情報のやり取りが可能になり、より安心な医療体制を整えている。身体状況に変化があった場合や緊急時は、24時間対応で施設内の看護師や訪問看護師、提携医や主治医、協力医療機関と連携し、速やかに適切な医療を受けられるよう努めている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日勤帯にいるため、必要に応じた適切な処置が出来ており、利用者の健康管理、体調の変化にすぐに対応出来ている。また、訪問看護への相談も適宜行っている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療側へ迅速に情報提供を行っている。退院時に入院中の情報収集を行い、退院後のサービス提供がスムーズに行えるよう努めている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際に重度化指針や看取りについて説明、意向を確認した上で施設として出来ることを説明し方針を共有している。また、入居後も体調の変化に合わせて状態報告し、その都度意向を確認。必要時には主治医からの病状説明を行い、終末期に向けチームで支援している。	看取りの経験があり、入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度、希望を再確認し、計画の見直しを行っている。医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。職員は看取りの経験を踏まえた上で緊急時対応の研修やメンタルケアも実施している。入居者の日々のケアの大切さも説明し家族と共に事業所全体で取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故対応のマニュアル作成をし、定期的に職員に向けての勉強会を行っている。また、管理者(看護師)が率先して対応することで、職員に安心感を与えるように努めている。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を計画実施。夜間想定でも実施。地域の委員の方に参加いただき協力体制を築いている。備蓄品を用意・管理している。東三河部内でも協力体制の計画がある。	年2回本社防災担当者の指導の下、地震や火災、津波など様々な災害を想定し昼間、夜間帯の職員体制で避難訓練や通報訓練、AED訓練を実施している。訓練終了後には問題点や課題を話し合い改善している。緊急時に備え、カセットコンロ、マスク、毛布、水や食糧など3日分の備蓄品を用意しリストにより管理している。今年は家族や近所の理髪店の方、民生委員の参加が得られ、車椅子の移動や消火訓練を実施している。運営推進会議では地域防災訓練について民生委員を中心に他施設と連携しながら広域避難場所まで誘導するなど話し合っている。今後緊急時に備え、蓄電池を準備する予定としている。	今後想定される様々な災害に対し、地域の防災状況を把握した上で事業所の役割として何が出来るかを職員で話し合い、今まで以上に相互協力し合える関係に進展させることを期待したい。

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応をしている。また、接遇等の研修で適切な対応が出来るように指導している。	入居者のこれまでの生き方と人生の先輩として尊重し個々の生活スタイルを守り、入居者の個性や人格、性差などを考慮した座席の配置や、それぞれの立場やプライバシーを損ねない呼び名で対応をしている。職員は、日々のケアの中で、馴れ馴れしさや雑になりがちな言葉使いなど機会あるごとに注意し合っている。また、接遇などの研修を重ねて、知識や技術の向上に努めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の言動の中から本人の思いや希望を組みとりながら、ご本人の意向に沿えるように支援している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	個々の意向や、ペースに合わせて、活動と休息のバランスが取れるように対応している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔を保ち、身だしなみやお洒落が出来るように声掛け、更衣介助を心掛けている。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ、野菜切り、混ぜたり、味付けしたり、調理を一緒に行い自立支援に繋がっている。また、イベント食やおやつレク等で食べる楽しみの場を作っている。看取りの方へも味わう楽しさを優先し、対応している。実際にそれにより味覚障害が改善され、回復された方もみえる。	業者の栄養士による栄養バランスの取れたメニューで毎食手作りにしている。季節に応じた鍋料理やクリスマス、おせち料理など行事によって選んだり、パンの好きな方の希望にも応じている。食事の準備や後片付けはその人の得意分野を生かし、職員と一緒にやっている。カレーパーティでは雰囲気を変えて食べたり、夏祭りには、かき氷やフランクフルトの出店を作り、ちらし寿司で祭り気分を味わうなど五感を大切にした食事の提供に努めている。おやつレクの五平餅やスイートポテト、ゼリーなどは楽しみの一つとなっている。家族や近所の方からの野菜や果物などの差し入れは食卓の一品として彩られている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにおいて食事形態や量などを意識している。また、一日の水分摂取量にも注意し、摂取していただいている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時において口腔ケアを実施。声かけ、見守り、準備、仕上げ磨きなど個々に合わせて介入している。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導している。パットからポイズ、リハビリパンツから布パンツへと自立へ向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し一人ひとりに合わせた声掛けやタイミングを工夫して自然な対応でトイレ誘導をしている。個々の状態に合わせたパッドの利用により日中は布パンツで過ごされる方も増え、尿意を感じ自力で排泄できる支援を目指している。夜間も、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援と誘導を行っている。夜間のみ必要に応じてポータブルを利用し、安心して排泄できる環境を整えている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取を促し、便秘予防に努めながら、下剤の調整を主治医と行っている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせ、女性職員対応をしたり、入るタイミングや時間帯を考慮している。週3回入浴。一人ひとりお湯の入れ替えも行っている。ADLに合わせてリフト浴対応や体調に合わせてシャワー浴にしている。	入浴は週3回を目安に行っているが、希望があればいつでも入浴できる環境を整えている。お湯は一人ずつ入れ替え常に清潔を保っている。ゆず湯、菖蒲湯で季節や香りを楽しむ工夫をしている。左右可動式の浴槽でその方の状態により、リフトを設置して湯船に浸かったり、体調に合わせてシャワー浴にするなど一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫してタイミングを見計らい、気持ちよく入浴できるように支援をしている。入浴後に化粧水や乳液を使っている方もいる。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせながらも、昼夜逆転にならないように注意している。食後の昼寝もすすめて、休息が取れるようにしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を確認し、各自が内服状況を把握している。また、主治医や看護師の指示のもと変更にも対応し、体調の変化にも対応している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり興味あること、出来ることを生活歴や会話の中から探り、楽しく生きがいを持って過ごすことが出来るように支援している。気分転換が出来るように散歩も積極的に取り入れている。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は毎日散歩し、個別にドライブへも出かけている。花見は家族も参加し一緒に楽しんだり、公園では地域の方とも交流もあった。自治会のゴミ当番にも参加し清掃活動も行った。玄関先の花の水やりも日課となっている。	外出の制限も緩和され、お天気の良い日には一人ひとりの希望に沿った散歩を実施している。日々の散歩では途中で自販機の飲み物を買ってピクニック気分を味わったり、ごみ出しや草取りなど日常の暮らしを充実させる支援にも努めている。日当たりの良い玄関テラスに置かれたバス停でおしゃべりしたり、花の水やりなど外気に触れる機会を大切に支援をしている。また、ドライブや季節の桜や紅葉見物、初詣などには家族も誘って出掛けるなど工夫をしている。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない。必要時は立替で引き落としされている。自動販売機のジュースも立替となっている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は携帯電話の持ち込みも許可している。また、郵便物の受け渡し、希望者には手紙を書けるようお手伝いしている。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物を一緒に作り、フロアに飾ったり、席が分かりやすいように名前を貼ったり、座布団を置いたりしている。ひじ掛けやベッドの手すりなどが体に当たり圧迫されるような時は、クッション材を巻いて対応している。CO2測定器を設置、換気をしっかりとすることで、常時感染予防に努めている。	天井が吹き抜けで高く、天窓から採光を取り入れ明るい共用空間は、清掃が行き届き清潔感と解放感がある。各ユニットの個性を生かして四季折々の手作り作品を飾り、壁面には昭和を代表する俳優や映画のポスターを貼って会話の一助としている。入居者の性格や状態に応じた机の配置と換気や感染予防に配慮した居心地の良い大人の生活環境を提供している。キッチンからは入居者の動きや気配がよく見渡せ、調理をしながら入居者を見守ることができる。入居者は新聞やテレビを見たり、家事仕事やおしゃべりをしたりして寛いでいる。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席だけではなく、個別に一人になりたい時はソファで過ごすことが出来るように共用空間での居場所作りを実施している。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使い慣れた物、好みの物を配置、手作り作品や写真などを飾って自分らしく落ち着いた空間になるように配慮をしている。	居室にはクローゼットや洗面台が備え付けられ、自身で洗面や着替え、お化粧や髭剃りなどの身だしなみが整えられるよう配慮されている。ベッドは入居者の状態に応じたタイプを提供している。使い慣れた筆筒や好みの椅子、テレビ、ラジオなど自宅で使用していた物を持ち込み安心できる環境作りをしている。また、趣味で作ったトールペイントや水墨画などの手作り作品や家族の写真を飾って自分らしく落ち着いた生活ができるよう工夫している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすい掃除道具を準備したり、室内で安全に洗濯物干しが出来るように工夫することで、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000622		
法人名	株式会社 大木家		
事業所名	グループホーム牟呂 (ユニットB)		
所在地	豊橋市牟呂中村町5-4		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	令和6年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2392000622-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	令和5年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは、自分らしさを大切に安心して暮らせる第2の家を目指し、出来る限りお一人お一人のご要望に応えることが出来るように関わらせていただいております。真心を込めた接遇をさせていただくと共に、専門スタッフによる手厚い介護体制でお世話させていただいております。管理者が看護師であるため、急変や体調不良などの判断も速やかに対応することができ、入居者様・ご家族様・スタッフも安心して過ごすことが出来ると考えております。お看取りまでさせていただく施設であるため、グループホームには珍しくリフト浴・介護用ベッドの設備もあり、ADLが低下しても快適に過ごすことが出来ます。会議・勉強会にも力を入れ、日々の入居者様の変化をグループラインで情報共有をすることで、きめ細やかな対応が出来ています。またその一方で、レジャーエーションにも力を入れ、入居者様が楽しめる努力を惜しまない明るい施設となっております。入居者様の自立支援・残存機能を生かし、生きがいを持ってゆったりと自分のペースで暮らして行けるように支援し、安心して人生の最期を迎えることが出来るように関わらせていただいております。新型コロナが第5類に移行し周りの施設も外出制限がなくなっていますが、当施設ではご家族様のご意向を聞きながら慎重に対応しております。今年のお花見はご家族様も参加され大変好評でした。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建てのモダンな事業所は、幹線道路から一筋中に入った公園や寺、小学校、住宅地が立ち並ぶ中に位置している。法人の理念と職員で考えたスローガン、「優しい心、素直な心、学びの心」を目標に掲げ、思いやりや笑顔あふれる暖かい環境の中で、一人ひとりの希望を尊重し、安全性に配慮した支援を心がけている。地域の行事が再開し、状況を確認しながら参加の方向で進めている。地域の利便性を活かし、歩いたり車椅子で馴染みになった小学校や寺、公園など地域の散策を楽しんだり、ゴミ出しや理髪店の利用、お揃いのTシャツを着てラン伴の応援をしたりして地域との交流を図っている。また、事業所主催の防災訓練に地域の方の参加を得たり、近隣の他施設と共に入居者も地域の防災訓練に参加するなど防災訓練を通して災害への意識を深めるようしている。趣味の編み物や裁縫、お化粧、男性の好きな囲碁やキャッチボール、サッカー観戦などを通じて今まで培ってきた経験が日々の生活に生かされている。食事は手作りの良さにこだわった食材を活かしたり、好きなメニューを選んだりして、入居者と一緒にと手間かけて調理し、料理に合う食器に盛り付け楽しく食事をしている。「バスの来ないバス停」で日向ぼっこをしながら気長におしゃべりしたり、吹き抜けの天窓から陽が入る明るいリビングで入居者同士がおしゃべりを楽しんだり、ソファに座りコーヒーを嗜んだり、テレビや新聞などを心行くまで見たりして穏やかに過ごしている。喫茶店や外食などの外出、ドライブや季節の桜や紅葉見物、初詣などには家族も誘って出掛ける準備をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念における共有を会議毎・研修時毎に復唱することで、実施に繋げる努力をしている。また、事業所理念を掲示することで、職員の共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は一年を通して散歩に出かけ、地域の方と交流の機会を作っている。また、近所の床屋を利用することで、地域との繋がりがあがる。民生委員様を通して地域行事への参加の計画がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症座談会の開催、「バスの来ないバス停」の設置により認知症のかたの啓発運動に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で施設内での転倒防止への取り組み、お看取りやADL改善事例などを詳しく報告することで、改めて施設での評価に繋がった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所で開催される作品展の担当として参加させていただき、包括主催の認知症座談会に関わらせていただくことで、協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における研修を実施。実際に入居前に病院で身体拘束されていた方を受け入れ、拘束をしないケアを行うことでADLも改善され、表情が明るくなった事例結果が職員全体の質の向上に繋がっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施し、虐待防止に心掛けている。研修の結果、職員間の声掛けの言葉使いにそれぞれが敏感に注意し合える雰囲気となっている。また、カメラを設置することで介護状況を確認でき、カメラ設置の認識において事象発生リスクをなくしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度理解と活用を考え、利用者により成年後見・保証協会等の相談にも応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明時間を設け、不安などにて理解・納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	こまめに電話連絡し、また面会時などに機会を設けている。また、玄関に意見箱を設置して環境を整えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談、会議、日頃からのコミュニケーション、ワークスのアンケート機能を利用するなどし、提案や要望を聞いて、その都度問題解決及び可能な内容については運営に反映している。また、玄関・事務所内に意見箱を設置している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃からのコミュニケーションを大切に一人ひとり声をかけ信頼関係の構築に努めている。面談でも改善点だけでなく、長所をほめ、向上心を持って働くことができるように関わっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・実務者研修の参加を促すことで職員のモチベーション向上に努めている。施設内の定期的な研修の他に、その時々で必要と思われる情報共有することで学ぶ機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東三河認知症連絡協議会の会員に入らせていただき、他施設の管理者との交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望・不安な事などをご本人様から聞いたり、言動から探っている。ご家族様からの情報を基に早期に信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること、要望などを聞いた上で、サービス内容の説明を行い理解していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の要望を確認し、場合により他事業所の案内や他サービスの利用も考えた中でご本人様の入居の検討を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来ることを見極め、生活の中で生かし信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに近況報告し、足が遠のいているご家族様へはさりげなく面会を促したり、面会をしやすい雰囲気を作り関わっている。新聞の内容も、施設での状況が伝わるよう工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外にもお友達が気軽に会いに来られるようご家族様へは説明している。入居時にお好きな事などをご家族様から聞くことで、iPadですもう観戦をしたり、囲碁盤を持ってきていただいたり、大切にされてきた習慣が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考慮した席の配置にすることで心地よい環境を作り、関わりが持てるように努めている。またトラブルになりそうな時は、職員が間に入り、関係の修復を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時において、出来る限りのフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の思いや暮らしの希望を確認し、何気ない言動からくみ取るように努めている。表出の少ない人は、表情から把握したり、gp家族からの話を聞いて意向に沿ったサービス提供を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り本人の思いや暮らしの希望を確認し、何気ない言動からくみ取るように努めている。表出の少ない人は、表情から把握したり、gp家族からの話を聞いて意向に沿ったサービス提供を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状況を確認し、状態に変化があった際には、職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス提供記録や職員間での情報共有、計画作成者が現場業務に入ることによって状態把握できている。また管理者兼看護師兼計画作成であり、家族とも密に連絡をとった上で現状に即した計画を作成することが出来ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録や職員間での情報共有をしっかり行うことで、ケアの実践、計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態に合わせた支援やその他サービス利用が行えるように状況の把握と共有をし、家族の要望にも対応できるよう、その時々にあったサービス提供ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族のご意向もあり実現できていないが、地域イベントの参加や買い物などに出かけられるように考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は月2回の往診と24時間体制で緊急時夜間でも対応出来ている。他科受診時介助が必要な方へは付き添いや送迎の支援など柔軟に対応出来ている。必要時は訪問看護の導入や在宅酸素の導入もあり、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日勤帯にいるため、必要に応じた適切な処置が出来ており、利用者の健康管理、体調の変化にすぐに対応出来ている。また、訪問看護への相談も適宜行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療側へ迅速に情報提供を行っている。退院時に入院中の情報収集を行い、退院後のサービス提供がスムーズに行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際に重度化指針や看取りについて説明、意向を確認した上で施設として出来ることを説明し方針を共有している。また、入居後も体調の変化に合わせて状態報告し、その都度意向を確認。必要時には主治医からの病状説明を行い、終末期に向けチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故対応のマニュアル作成をし、定期的に職員に向けての勉強会を行っている。また、管理者(看護師)が率先して対応することで、職員に安心感を与えるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を計画実施。夜間想定でも実施。地域の委員の方に参加いただき協力体制を築いている。備蓄品を用意・管理している。東三河部内でも協力体制の計画がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応をしている。また、接遇等の研修で適切な対応が出来るように指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の言動の中から本人の思いや希望を組みとりながら、ご本人の意向に沿えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の意向や、ペースに合わせて、活動と休息のバランスが取れるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔を保ち、身だしなみやお洒落が出来るように声掛け、更衣介助を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ、野菜切り、混ぜたり、味付けしたり、調理と一緒に自立支援に繋がっている。また、イベント食やおやつレク等で食べる楽しみの場を作っている。看取りの方へも味わう楽しみを優先し、対応している。実際にそれにより味覚障害が改善され、回復された方もみえる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにおいて食事形態や量などを意識している。また、一日の水分摂取量にも注意し、摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時において口腔ケアを実施。声かけ、見守り、準備、仕上げ磨きなど個々に合わせて介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導している。パットからポイズ、リハビリパンツから布パンツへと自立へ向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取を促し、便秘予防に努めながら、下剤の調整を主治医と行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて、女性職員対応をしたり、入るタイミングや時間帯を考慮している。週3回入浴。一人ひとりお湯の入れ替えも行っている。ADLに合わせてリフト浴対応や体調に合わせてシャワー浴にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせてながらも、昼夜逆転にならないように注意している。食後の昼寝もすすめて、休息が取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を確認し、各自が内服状況を把握している。また、主治医や看護師の指示のもと変更にも対応し、体調の変化にも対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり興味あること、出来ることを生活歴や会話の中から探り、楽しく生きがいを持って過ごすことが出来るように支援している。気分転換が出来るように散歩も積極的に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は毎日散歩し、個別にドライブへも出かけている。花見は家族も参加し一緒に楽しんだり、公園では地域の方とも交流もあった。自治会のゴミ当番にも参加し清掃活動も行った。玄関先の花の水やりも日課となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない。必要時は立替で引き落としされている。自動販売機のジュースも立替となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は携帯電話の持ち込みも許可している。また、郵便物の受け渡し、希望者には手紙を書けるようお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物を一緒に作り、フロアに飾ったり、席が分かりやすいように名前を貼ったり、座布団を置いたりしている。ひじ掛けやベッドの手すりが体に当たり圧迫されるような時は、クッション材を巻いて対応している。CO2測定器を設置、換気をしっかりすることで、常時感染予防に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席だけではなく、個別に一人になりたい時はソファで過ごすことが出来るように共用空間での居場所作りを実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使い慣れた物、好みの物を配置、津作り作品や写真などを飾って自分らしく落ち着いた空間になるように配慮をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすい掃除道具を準備したり、室内で安全に洗濯物干しが出来るように工夫することで、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。		